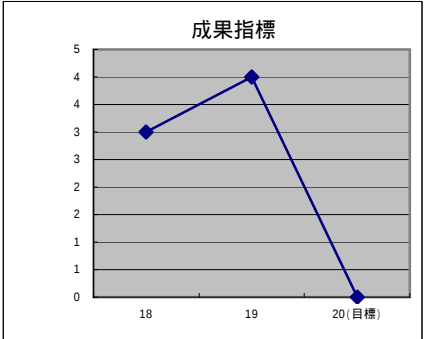
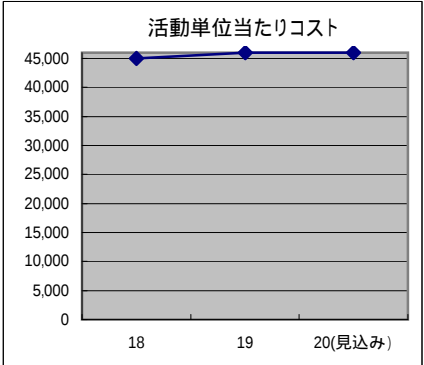


事務事業名		福祉理美容事業		予算科目	会計	1	一般会計	
					款	3	民生費	
まちづくりの目標(章)		2	健康で生き生きと暮らせるやさしいまち		項	1	社会福祉費	
施策(節)		4	障害者福祉		目	2	社会福祉事業費	
施策の方向		(2)	地域での自立した生活支援の充実	事業	3	障害者(児)福祉		
関連する計画等					作成部署	保健福祉部福祉支援課		
					連絡先	072 - 958 - 1111 内線 1211		
事業の目的	対象(誰を・何を)							
	重度の身体障害者で、寝たきりの状態にある者							
	意図(どういう状態にしたいのか)							
	重度身体障害者の清潔を保持し、健康と福祉の増進を図るとともに、家庭介護者の負担の軽減を図る。							
事業の内容	在宅の重度身体障害者で理美容店に赴くことができない障害者に対して、出張により理美容を実施する際の出張費について助成する。							
	対象者：身体障害者手帳1級・2級の所持者で、在宅で寝たきりの状態にある者 助成額：1回あたり2,000円(出張費相当額)							
根拠法令等		羽曳野市福祉理美容事業実施要綱						
事業開始時期		☐ 昭和 ☒ 平成 12 年 月開始 ☐ 明確にはわからない						終了年度 平成 年度
事業開始時からの状況変化								
市民や議会の要望								
実施手法		☐ 直営 ☐ 一部委託 ☒ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()						
委託先	☐ 外郭団体委託		名称			委託内容	訪問による理美容の実施	
	☒ 民間委託							

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		6	8	8
人件費【2】 (千円)		84	84	84
職員数	正規職員	0.01 人	0.01 人	0.01 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		90	92	92
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他(手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	90	92	92
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
利用者数 人		2	2	2
活動単位当たりコスト(【A】/【B】)		45,000 円	46,000 円	46,000 円
市民1人当たりコスト(【A】/人口)		1 円	1 円	1 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
		実施回数（回） 式)		目標			達成率(%)			
				実績	3	4				
		式)		目標			達成率(%)			
				実績						

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	社会的弱者を対象とした福祉施策として市の関与は必要である。
					○						

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☐	☒	☐	外出が困難な重度の障害者にとっては、理美容を受ける機会の確保に繋がるものであり、妥当な事業である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☒	☐	☐	
		社会情勢の変化に対応している	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業と重複していない	☒	☐	☐	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☐	☒	
	効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)	☒	☐	☐	事務内容としては、年度ごとの契約に関する事務と委託料を支出するものであり、効率的に運営している。
		受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない	☐	☐	☒	
	有効性	上位の施策(目的)が明確である	☒	☐	☐	外出が困難な障害者の生活の質の向上に繋がるものであり、有効である。
		上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☒	☐	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☐	☒	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☐	☒	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☐	☒	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☐	☒	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☐	☐	☒	申請に基づくものであり、目標値の設定にはなじまないが、利用申し込みがあった方には全員対応できている。
		成果指標の実績値は目標値以上である	☐	☐	☒	
		成果指標は前年度より向上している	☐	☐	☒	

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	対象者が少ないとはいえ、外出が困難な重度の障害者にとっては、理美容を受ける機会の確保に繋がるものであり、妥当な事業である。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 継続実施する。	